



四人の起業家が語る「体験談」と「想い」

レポーター：佐藤 安彦・中野 知子

2019年8月18日に夏休み恒例の「大人と子供のためのハッピー・マネー®教室」(第167回I-OWA マンスリー・セミナー)が開催されました。今年で7回目です。最初は年少組の子供たちも毎年参加してくれて今は堂々たる小学校高学年生です。今年は例年のハッピー・マネー®教室に加え「起業家になろう!」というセッションを加えました。ここに紹介するのはその際にお招きした四人の起業家の方のお話です。その後のパネル・ディスカッションは次号に掲載します。

株式会社和える 代表取締役 矢島 里佳氏

(乳幼児から使える日用品を全国の職人と共にオリジナルで製作販売するなど、日本の伝統や先人の智慧を、暮らしの中で活かしながら次世代につなぐために、様々な事業を展開する会社を起業した方です)

皆さんこんにちは！ご紹介いただきました矢島です。私は大学四年生の時に「和(あ)える」という会社を創業しまして、今年で8年目になります。今日は私が企業した思いや、なぜ「和える」がお金稼ごうと思ったのか、何に使おうとしているのか、そんなお話をしたいと思います。



皆さん、会社は人間だと思ったことはありませんか？私は22歳の時にこの「和える」を創業したのですが、その時、社長になったという感覚ではなく、「和える君」のお母さんになったという感覚で会社を始めました。というのは、私は慶応大学の法学部政治学科で勉強をしていたのですが、ある法律の授業で先生が「日本で人間以外に人格を持っているのは会社だけ」という話をしてくれました。人間は人格を持っています。会社は法人格、つまり日本の法律の下にある人格を持っているのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

例えば皆さんの保護者の方は住んでいる地域に住民税を払っています。住んでいる地域でいろいろなサービスを受けるために皆でお金を出し合っただけでなく、地域を良くしていくための税金だと思いが、会社も人間と同じように住民税を払っています。なぜ会社が住民税を払うのだらうと不思議に思っていたのですが、会社は人間なのだと思うようになったところ、住民税を払うことが理解できるようになりました。

365日24時間、社長として一生懸命会社を運営してお金を稼ぐと考えると、心がしんどくなってしまい、何のために働いているかということをおぼろげに忘れてしまいます。でも、会社を生み出した創業者、起業家は会社の保護者になると考えると、「和える君」がどうして生まれてきたのかという思いを持ち、どのような子に成長したら社会がもっと美しく、豊かで、優しい人が増えるのかという考え方ができるようになります。

「和える」は私が「和える君」という1人の息子を育むお母さん、一緒にお世話をしてくれるお兄さん、お姉さんは社員。みんなで「和える君」が生まれた理由を伝えながら目指している社会をより早く実現するためにお金を美しく稼ぎながら、継続的に持続的な仕事をしていきたいという思いから始まった会社です。

私たちが何をしているかというと、日本の伝統を次世代に繋ぐ仕組みを作っています。「和える君」は0歳の赤ちゃんの時から大人になっても使い続けられるものを日本全国の伝統産業の職人さんと一緒に作っている会社です。

いろいろな事業がありますが、今日は最初に私が和える君を創るきっかけとなった0歳からの伝統ブランド「和える」についてお話しします。「和える」は、日本で生まれた子供たちはなかなか日本の文化や伝統に出会う機会がないと気がつきました。私自身も東京で生まれ、千葉のベッドタウンで育ちましたので、文化も伝統も知らないまま育ちました。これからグローバル化が進んでいきます。そこで活躍する国際人とは、生まれ育った地域や自分たちの伝統を語れる人だと思います。英語は大変重要ですが、英語だけ勉強して英語という手段を身につけても伝える中身を持っていないければ何も伝えられません。例えば私自身も中学生や高校生の時にアメリカでのホームステイを経験し、ホストファミリーから(日本の文化である)着物や抹茶、漆について聞かれましたが答えることができませんでした。

日本人が生まれながらの日本人になっていかないと、グローバル化が進む中で私たちのアイデンティティーが失われてしまうという思いが強くなりました。そこで職人さんたちと共に、赤ちゃんの時から大人になるまで使えるものを作り、出産祝いに皆が日本で作られた物を贈り合う文化を作ったかどうかというアイデアが生まれました。このアイデアは私1人だけでは実現できないので、いろいろな方に協力していただきやすいように会社という形にしました。皆で「和える君」を育て、「和える君」が育ったら、今日、生まれる赤ちゃんが日本に出会う機会が増えていく。そんなアイデアを実



長期投資仲間通信「インベストライフ」

現するために「和える」は生まれました。

日本は世界的に見たとき、(物質的に)とても豊かな国であると思いますが、心の豊かさはどうでしょうか？不安定な心を持った人がたくさんいるように思います。(お皿を見せながら)離乳食が食べやすいように返しがある器ですとか、(和紙の風船を見せながら)暮らしの中でなくなってきている和紙に触れながら遊ぶという触感など五感を通しての伝統との出会い、そのような心の豊かさを気付かせてくれる伝統文化に触れて心が安定した人が増えていけば、安定した心でお金を使うことができる機会も増え、寄付や運用ができる人も増えていくと思います。

私たちはお直しもしています。壊れてしまったものを治すということも、今一度考えていきたいと思っています。もし家に割れてしまったお茶碗などありましたら是非「和える君」に教えてください。職人さんと一緒に皆さんの大切なもの直すお手伝いをします。和える君は決して子供のものだけでなく、大人の皆さんも一緒に使ってくれるものを目指しています。

Twitter や instagram で発信もしています。東京の目黒には直営店もありますので是非遊びに来ていただけたら嬉しく思います。今日はありがとうございました。

発明家・物理学者 齊藤 健氏

(大手建設会社で多大な技術開発と発明をした後、自身の研究の成果を使ったエネルギー装置を実用化し、世界のエネルギー問題、気候問題を解消しようとしている起業家の方です)

皆さんこんにちは。齊藤と申します。皆さんは発明という言葉聞いたことがありますか？発明とは今まで世界の誰も考えたことがない新しいものを考え出すという意味です。今日は特別に実験をお見せします。

(オルゴールの音がそばにおいたプラスチックの板を曲げると大きくなるという実験を皆さんに見せる)



なぜこのようなことが起きるのかというのは学校の先生も含めて世界の誰もわかっていません。このように世の中にはわかっていない事がたくさんあります。皆さんには発明のチャンスがたくさんあるのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

特許という言葉聞いたことがありますか？こちらは(スライドを見せる)僕が最近取った特許です。発明すると特許庁に審査をしてもらい OK をもらおうと特許になります。起業する場合は、お金とともにぜひ特許についても勉強してみてください。特に今の時代は大きなチャンスがあるのです。こちらは特許庁のウェブサイトです。ここに発明や特許の事が小学生でもわかるように書いてあります。

では発明をしたり、特許を取るコツは何でしょうか？それはズバリ、考えることです。今、皆さんはなんだ、そんなことかと思ったかもしれません。ですが、私にとっての考えるということは少し皆さんとは違うと思います。それは頭だけでなく、全身で考えるのです。全身で考えるということ、場合によっては 10 年くらい続けます。本当に考えるということはそのようなことなのです。

これから、僕が 10 年間全身で考えて発明し、今後、起業する話をします。(洪水のスライドをみせながら)この写真は昨年日本で発生した豪雨で町全体が水に浸かってしまった状況です。たった 10 日間の雨で 200 人以上の方々が亡くなりました。壊れてしまった家の数は 2 万件くらいです。次にアメリカの大雨の写真を見せます。(別のスライドを見せる)上からも横からも激しい雨が降っています。

このような異常気象が世界各地で起こっています。異常気象の原因は地球温暖化と言われおり、その対策のために世界中で太陽光発電や風力発電をたくさん建設しています。実際、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出は減ったのでしょうか？実際にグラフで見えて見ましょう。(グラフのスライドを見せる)現在も継続的に増え続けています。このことから、残念ながら太陽光発電や風力発電の建設は二酸化炭素排出の減少に効果がないということがわかりました。また、我々人類がこの問題に対して対策できる期間はあと 10 年しかないのです。

しかしながら、このような時こそ発明して起業するチャンスなのです。おさらいしましょう。発明とは今まで世界の誰も考えたことがない新しいものを考え出すことです。発明するコツとは全身で考えることです。どうしたら地球の温暖化を解決できるのか全身で考えてみましょう。僕はこの問題をずっと前から気付いていたので今まで 10 年間研究してきました。そしてついに発明することができたのです。これはまだ秘密の情報なので、今日はアイデアの基本的な部分だけお話しします。

私たちの身の回りには地球を温めてしまう電気製品があふれています。携帯電話、冷蔵庫、ドローンあるいは工場の製造機械などです。中には触ると火傷をしてしまうほど熱を出しているものもあります。これら電気製品は世界中にあふれています。電気製品には必ず電気回路というものが入っています。この電気回路のある部分を工夫すると熱がものすごく減るとことがわかりました。この先は秘密のことなのでお話できません。

世界の誰も気が付かないことは意外とシンプルなことが多いのです。大切なことは全身で考える練



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

習をすること。子供たちの方が得意なはずです。全身で考えるには算数や理科の勉強だけでなく、国語や社会のこともたくさん勉強し、音楽や体育も全身で取り組むこと。すべてのことは繋がっています。ということで発明をして起業するという話でした。皆さん全身で聞いていただきありがとうございました。

株式会社テーブルクロス 代表取締役 城宝 薫氏

(社会貢献型のグルメアプリを運営する会社を立教大学4年生の時に立ち上げ、頑張っている方です)

皆さんこんにちは。私はテーブルクロスという会社の城宝です。よろしくお願いします。手元にある資料以上に、皆さんがお持ちのスマホとかパソコンから私の名前を検索すると、小学校から中学校、高校、大学、私の彼氏、年収などが全部見るできるようになっています(笑)。もし興味があればそちらで詳しいプロフィールを見てください(一同笑)。何をしている会社か、どんなことをしてきたのかも全部公開されているんですけど、今日はちょっとした「実は・・・」という話をしたいと思います。

実は、私は小学校3年生の時に「社長さんになりたい」という夢を持ったところから、今の会社がスタートしています。9才の頃だったと思います。「将来の夢は社長さんになることです。なぜなら、社長さんがカッコいいからです」って言っていました。学校の友達からは、「社長さんになるって言ったけど、本当に起業したんだね」って今になって言われたりもします。



小学生の時に社長になるって決めて、それから何をしたいのかとか、何をしたら社長になるかというのをひとつずつ考えていきました。先ほど紹介していただいたように、今は、途上国や子供たちの課題を解決する会社を立ち上げているんですが、そもそもどうして社長さんになりたいかと思ったかをお話します。小学生の時に家族でインドネシアに旅行したことがありました。私はその時に、親に「どこに行きたい?」って聞かれて、自分がまだ見たことがない世界に行ってみたいと思って、たまたま「インドネシア」って答えたのが行くきっかけでした。9才の時です。インドネシアに行くと、真昼なのに子供が学校に通っていないんですよ。私は毎日頑張って学校に通っているのに、インドネシアに行ったら学校に通わなくていいんだと思いました。

だけど、実際はそうではなくて、インドネシアでは小学生くらいの年齢になると、弟や妹の面倒を見たり、ゴミ山に行って空き缶を拾ってお金に換えたりしていて、自分の同じ年齢くらいの子供たち



長期投資仲間通信「インベストラيف」

が、明日どうやって食べるかを自分で考えて自分で働いているという現状が、強く印象に残りました。自分と同じ年の友達が、学校に通って勉強して将来の夢を持って過ごすのではなくて、明日のために大人と同じくらいに頑張ってる働かないといけないんだということ、国が違うってこんなに大きなことなんだということに気が付いて、そういう子供たちのために何かしたい、というよりも、自分がすごく幸せなんだなと思いました。

日本に住んでいて日本で暮らしていて、旅行ができて、保護者の方に面倒を見てもらって、「すごい幸せなんだな」って思ったので、自分にできることは何でもしようということから、赤い羽根の募金に10円を入れてみたり、スーパーマーケットなどで盲導犬の募金箱を見つけたら10円入れてみたり、小学校3年生4年生のころはそんな事をしていたのが、思い出として残っています。

ここで皆さんにひとつなぞなぞがあります。会社を建てるためにはどうしたらいいでしょうか？会社の社長さんになるとか、起業をするという大変なことをするイメージがあります。私も将来の夢は社長さんになるという夢を持った時に、どうしたら社長になれるか調べました。どうしたら会社を立ち上げることができるか、わかる人いますか？

会社を立てるためにどうしたらいいのかって考えて調べていた時に、ひとつわかったことがありました。当時、家でゴミ捨てというアルバイトをしていました。家にある空き缶とか、燃えるゴミを捨てると10円か20円くらい貰えました。稼ぐというアルバイトをしたり、親の肩揉みのアルバイトをしてお金を稼いでいたんですけど、そのお金が貯まっていったら25万円になったら会社の社長になれるんだって思いました。

実は、25万円あると、日本の中では株式会社というものが登録できるということを知りました。それと、もうひとつ知ったのが16歳から登録ができるということでした。つまり、25万円持っていて、16歳を超えたら誰でも社長さんになれるちゃうのだからということに気が付きました。これを知った時はめっちゃくちゃつまらないなと思いましたね。大学生になって、初めて飲食店でアルバイトを試みたり、家庭教師をやってみたりしました。時給は950円くらいだったと思います。これでお金を貯めることや投資をすること、お金を使うことを覚えていきました。

実はそれ以上に大事だったなと思うは、何のための会社を作ろうかということを一生涯懸念考えるということです。何のために何をやりたい会社かということを確認にイメージすることです。私の場合は世界中の子供たちが夢に向かって一歩頑張れる環境を整えるための会社を立ち上げたいと思ったんですね。子供たちにインベスト、つまり投資する会社です。ただ、途上国に行って子供たちとコミュニケーションを取るのではなくて、ITというインターネットの世界を通して寄付を集める事ができたら、大きなプロジェクトになるんじゃないかと考え、今、ITの会社を運営しています。

みんなが飲食店で食事をするのにどのお店にしようかなと探すとき、あるいは、今、日本にたくさ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

んの外国人が来ていますが、その人たちがグルメツアーに行くときとか、日本酒の飲み比べイベントに参加したいとか、こういうグルメに特化した情報配信をしています。情報配信をしているサイトで予約したり、チケットが買えたり、決済できたりするのですが、予約や決済がされることで、子供たちに給食を届けられる、こういう会社を運営しています。その結果、23万食以上届けることができました。自分で途上国に行って子供たちに学校給食を作ろうとして1ヶ月間くらい行っても、1,000食とか2,000食しか作れないんですけど、ITを日本中の人たちに使ってもらうことで、世界中の人に届けることができるのです。

今は、1ヶ月に101校に給食を届けています。ITの会社なので、システムを作ったり、どうやってマーケティングをしたりするのかというような話をしていますが、社員の8割が外国人なので日常生活はずっと英語を話しています。私は海外に留学はしたことないんですけど、なんとか頑張って、外国人の社員ともコミュニケーションを取りながらシステムを作って、子供たちに給食を届けて、子供たちがようやく学校に通うことができる仕組みを作っている会社です。

小学校3年生で社長さんになりたいって思って、11年後に立ち上げた会社がまさかこういう風になるとは、自分でも思ってなかったんですけど、インドネシアなどで見た子供たちのために何ができるか、目の前の子供たちだけではなくITを掛け合わせることで子供たちの笑顔が作られていること、これがすごく楽しくて、仕事をしています。聞いていただき、ありがとうございました。

鎌倉投信 代表取締役 鎌田 恭幸氏

(大手信託銀行から外資系資産運用会社に転職、その後、仲間とユニークな投資信託会社を起業した方です)

みなさんこんにちは、鎌田といいます。鎌倉投信という会社を経営しています。よろしくお願ひします。さっきの城宝さんすごいですね。小学校3年生で社長になるって決めたとか、矢島さんも大学生の時に会社を作ったとか、齊藤先生も全身で考えて10年間続けるって、並大抵ではないですね。



そんな中で僕は、田舎で生まれ育ちまして、社会人のスタートは普通のサラリーマンでした。信託銀行に入り、そのあと外資系の金融機関で岡本さんと一緒に仕事をしていました。20年間、普通のサラリーマンをやっていて、そのあと、鎌倉投信という会社を作りました。今日は10分という短い間ですけど、僕がどういうことをやっている



長期投資仲間通信「インベストライフ」

かということ、仕事でいろんな起業家の人と会ってきていますので、子供たちが将来、起業家になるときに、どんな気持ちで取り組めばよいのか、そんなことを話していきたいなと思っています。岡本さんからハッピー・マネー四分法の話がありましたが、僕はこの中の「ふやす＝投資する」という仕事をしています。投資の場合、将来価値が高まるとされるものを皆さん買うのですが、そのお手伝いをしています。

簡単に説明をすると、投資信託というお金を増やす仕組みの金融商品を僕は取り扱っています。いろんな人たちからお金をお預かりして、ひとつの資金にまとめます。その資金を、株式とか不動産とか商品とか、これから価値が上がりしそうだと思うものにお金を配分して、そこから出る利益をみんなに還元するという仕組みです。こういう金融商品を投資信託と言います。その運用会社が鎌倉投信で、僕が社長をやっている会社です。

じゃあ、他の会社と何が違うのかと言うと、お客様から預かったお金をどこに投資するか、ここが一番の違いなんです。なんでもいから儲ければよいというのではなくて、これからの日本の社会に役に立つ、良い会社に投資をしていこうと、そんな思いで会社を選んでいきます。それが鎌倉投信の方針です。

今日来ている子供たちの中で、1万円以上貯金があるという人いますか？いますね。鎌倉投信の投資信託は1万円あれば始めることができます（会場大爆笑）。今、300人くらいの小学生が鎌倉投信のお客さんになってくれています。ぜひ仲間に加わってください。

合い言葉は、「良い会社を増やしましょう」。単に儲ければいいということではありません。日本が抱えるいろいろな社会課題を解決するような会社を増やそうとしています。では、良い会社って何でしょうか？皆さんはこれから起業の事を考えていきます。儲ければよいという訳では無いと思います。みんなから愛される会社、人に幸せを与える会社を増やしていきたい、みんなにもそんな起業を考えてほしいと思います。

世の中にはいろんな会社があります。ファミリーマートやマクドナルド、ユニクロとか、みんな知っていますよね。例えばですけど、みなさんTシャツ着ていますよね。Tシャツがどうやって作られるか知っていますか？綿を集めて、布にして織って、シャツを作るんですね。その過程で、例えばだけでも、綿を作る畑で枯葉剤をどんどん使っている畑と、自然でやっている畑では全然、緑の色が違ってきます。色を染めるときには染料を使いますが、それを垂れ流しすると川が汚れてしまいます。これをやっているような会社って良い会社って言えるかな？（子供たちが「わるい会社！」）。そうだよ。会社は儲かるかもしれないけど、良い会社ではないよね。5年くらい前にこんな出来事がありました。大量にシャツを作るためにたくさん人を集めていっぺんにミシンを使っていたら、そのミシンの振動で建物が壊れて、多くの人々が亡くなりました。古い建物だったんだよね。こういう



長期投資仲間通信「インベストライフ」

条件で仕事をさせている会社って良い会社かな？(子供たちが「わるい会社！」) 悪い会社だよ
ね。でも、こういう会社で作られたシャツを買っているのは僕らかもしれないよね。

それから、みんな携帯電話使っているよね。携帯電話の中にはいろんな電子部品が使われてい
ます。希少金属と言われる、珍しい資源も入っています。日本ではないけれど、世界中で資源紛
争と言われる争いが起きています。そこではもしかしたら児童兵と言われる皆さんと同じ年齢くら
いの子供たちがいるかもしれません。今、20万人から30万人くらいいると言われていて、少しづ
つ増えていっています。それだけ紛争が多いということになります。

そこでちょっと考えてほしいのは、みんなの生活というのは、世界中のあらゆる問題と無縁ではな
いということです。先ほどの齊藤先生の気候変動の話もそうですね。だからちょっと考えてみるこ
とが大事なんだと思います。僕はこれまでにいろんな会社の社長さんと会ってきました。その中で成功
する起業家と失敗する起業家がありますが、皆さん、成功するのと失敗するのとどっちがいいです
か？(子供たちが「成功するほうがいい」) そうだね。そのときに大事な事がいくつかあるんです
ね。成功する起業家が大事にしている事がいくつかあるんですが、その全部は時間が足りなくて
話すことができないので、2つか3つ話したいと思います。

1つ目は、「運」です。成功した起業家は運が良かったと言います。でも、正確にいうと「運」が巡っ
てくるまで絶対にあきらめずにやり続けたということなんです。だから齊藤先生は成功します。10
年間全身で考えることを続けて絶対に諦めないですからね。そう考えると運が良かったというのは
正しい表現ではないですね。人の出逢いや縁をすごく大事にされるんですね。人はひとりでは成
功できません。どんなに優秀な人でもひとりでは成功しません。必ず誰かが助けてくれます。さっき
起業するにはお金が必要だという話がありましたけど、誰かがお金を出してくれたりだとか、一緒
に仕事をしてくれたりだとか、それが出逢いなんですね。それを運と言ってもいいのかもしれませ
ん。

運を磨くことはできないかもしれないけど、いい出逢いを作ることはできます。どうすれば良いか。
難しい言葉で言うと、『動機の純粹性』というふうに僕は言っています。強い思いを持つということな
んですけど、強い思いも自分だけが楽をしたいとかそういう話ではないんです。何のために誰のた
めに仕事をするのか、世の中のためにどんな仕事ができるのか、それを考えるのが動機です。自
分のことだけではないんですね。思いを強く磨く方法があります。それが、『「何をなすか」ではなく
「いかに生きるか」』。何か結果を出そうと目の前のことに全力を尽くすということです。これを大事
にしてください。『「念」ずれば花ひらく』、坂村真民という哲学者の言葉がありますけど、この「念」と
いうのは今に心と書きます。今を一生懸命生きる、これが基本です。

2つ目は、「勉強」です。今の時代は「こうやったら成功する」という時代ではありません。勉強って
何かと言うと、知識を得ることも大事なんですけど、自分の可能性をひらく土台づくりです。みんなは



長期投資仲間通信「インベストライフ」

今の時代にこの世に生まれてきていますけど、必ず人の役に立つ仕事に就きます。それが何なのかを知る過程が学びです。ですから、みんな一生懸命勉強をしてください。

3つ目は、「挑戦」です。成功する起業家の人たちは、とにかく失敗します。成功ばかりしている起業家はいません。成功の反対は失敗ではありません。何もやらないことです。自分が何をやりたいかを見つけて、一生懸命挑戦してほしいと思います。

起業とは、人の役に立つことを考えて自分にできる小さな一歩を踏み出すことです。これはどんなことでもよいと思います。夏休みの間にちょっとしたことでも自分で見つけて貰えたらよいと思います。話を聞いていただいてありがとうございました。